

展覧会情報

館蔵 古地図展

会場 千秋文庫
電話03-3261-0075
期間 9月1日(土)～12月12日(水)

企画展「城絵図を読むー岩瀬文庫所蔵の城地図ー」

会場 西尾市岩瀬文庫
電話0563-56-2459
期間 11月3日(土)～平成20年1月20日(日)

古地図・風景画展

会場 仙北市角館樺細工伝承館
電話0187-54-1700
期間 11月10日(土)～平成20年2月3日(日)

テーマ展「京の鳥瞰図」

会場 京都市歴史資料館
電話075-241-4312
期間 11月30日(金)～平成20年4月6日(日)

スポット展示「新大和川」

会場 堺市博物館
電話072-245-6201
期間 12月4日(火)～平成20年2月3日(日)

特集展示「城下町大坂」

会場 大阪歴史博物館
電話06-6946-5728
期間 平成20年2月20日(水)～3月31日(月)

古地図企画展 地図を楽しむ

会場 神戸市立博物館
電話078-391-0035
期間 平成20年3月1日(土)～3月30日(日)

巡検開催のご案内

池上昭和レトロ巡検

今回の巡検(見学会)は「池上昭和レトロ巡検」と題し、師走でにぎわう東急池上線沿線と「昭和の暮らし博物館」、池上本門寺を歩きます。昭和の暮らし博物館は、戦後の庶民の暮らしを語り伝えて生活資料を残すために平成11年2月に開館し、平成14年に国の登録有形文化財(建造物)となりました。

ご案内：伊藤等先生(日本大学)

開催日：平成19年12月22日(土曜日)

荒天の場合は翌23日(日曜日)に順延

定員他：約20名。参加締切は12月17日(月曜日)

申込み：電話 03-3262-1486 Fax. 03-3234-0872
mail icic_map@yahoo.co.jp のいずれか

集合：東急池上線五反田駅改札外側 午前10時

コース：五反田駅→久が原駅(約15分)→徒歩15分→昭和の暮らし博物館→徒歩30分→池上駅近く(昼食12時)→徒歩20分→池上本門寺(13時半～)→池上駅近く(15時頃一旦解散)→池上駅(15時半頃解散)

参加費：1,000円(博物館入館代、資料等含む)。なお現地までの交通費、昼食代は各自ご負担下さい。

ご注意：やや坂や階段の多いルートになりますので、軽

快で歩きやすい服装でおいで下さい。天候や諸事情によりルート等を変更する場合があります。参加者には集合場所と簡単なご案内をお送りします。



昭和の暮らし博物館(左上下)と池上本門寺五重塔(右)



地図 絡 み

第31回 一覧表という名の一覧図

帝京大学理事 井口悦男

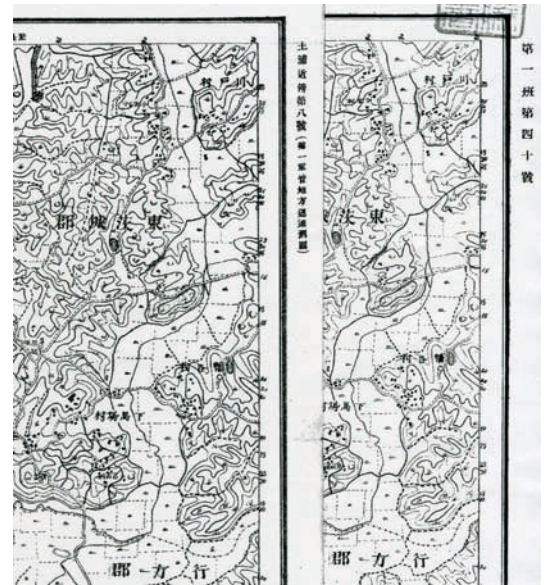
言葉の使い方、その意味、時と共に流転する。「この頃の若い者は」と言われながら年寄と交代した者が、また言葉をくり返す。

近頃、珍しい一覧図を手にした。参謀本部測量局が発行したヨコ22cm、タテ14cmの、やや横長の「土浦近傍急製二万分一圖一覧表」と題する、土浦付近2万分1迅速測図の各位置を表わす図と、「備考」とするこの図の説明文3カ条を列記した「明治十八年十月」(1885)のごく小形版のものである。元来このような一枚ものなのか、これらの図を収めた納入袋の一部であったのか、明らかでない。

旧所有者(陸測技師)が、墨刷のものに、水部に青エンピツ、主要道路(2本線表現分)に赤エンピツで色入れをしている。

その後の近傍別で「土浦近傍」とその東側「磯浜・鹿島近傍」、その西側「古河・関宿」分のうち、備考に断わるように全部発行されておらず、明治16.9~18.7間測量分と、当時の測量担当班別番号を大きく掲示し、図名は小さな丸印で該当位置を表わし、小さくその名称を記入する。

一体いつからこのような目録が作成されていたのか、最初の測量時期近くから存在したのか詳らかでないが、恐らくこの小紙片は、測量班別各図番号による点も考えると、各近傍毎の袋入れに記入された「一覧表」より前の形と思える。



測量局時代発行図の測量班別番号と同じ図のその後の近傍別番号「高濱村」

そう思えるさらに別の点として、「土浦近傍」と題しながら、縦長図域で25面を1近傍とするのに対し、それより広い範囲にわたる隣接する東西近傍分の一部を含む形をとっていることである。その上に、そのタイトルとして、聞き慣れない「急製二万分一圖」という名称を挙げることにもある。文字の意味に変わりはないとしても、応急作成を強調して、その後定着し現用の「迅速測図」という用語の採用以前を物語るといえようか。

各近傍毎の納入袋への印刷テスト版の一部転用であったとしても、旧所有者が陸測技官であったことから、その可能性は高い。清水靖夫氏が「正式以前測図」の中で、「土浦近傍、明治18年10月」とあげられたものと、同じ目録なのか、残念ながらこれも不明確である。

旧所有者は、大正末年から昭和初期にかけて、地形図にもとづく独自の鳥瞰図を「凸廻坊」として、代表的名勝地、北アルプス連山など試作を続けられた方でもある。初三郎画伯と同時代人として地図の普及に努力された一人である。

一覧表から一覧図にいつ変わったか、しっかりと押えていないが、明治20年代初頭の頃のことかと思う。



陸地測量部(明治21年)以前発行のもの(矢印は「高濱村」)